

世界各地の社会的要請に対応可能な日本語教育シンポジウム

2023年9月25日

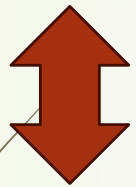
学部・大学院の連携で 教師教育者を育てる

広島大学
永田 良太

教育課程の構成

- 教育学部日本語教育系コース

<日本語教師の養成>



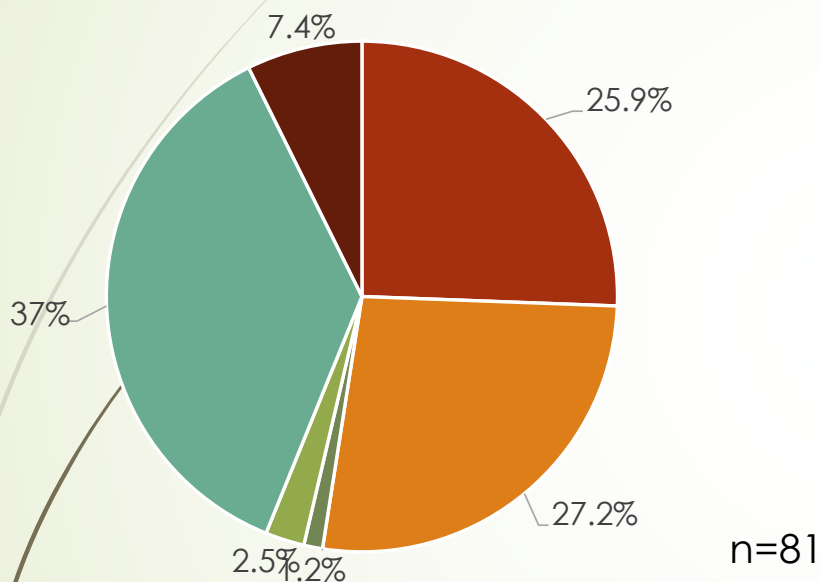
連携

- 人間社会科学研究科博士課程前期日本語教育学プログラム
- 人間社会科学研究科博士課程後期日本語教育学プログラム

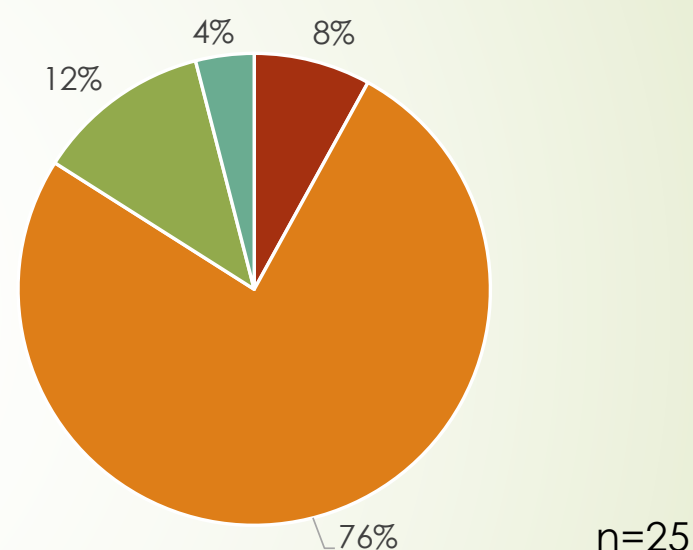
<日本語教育に関する高度専門人材・研究者（教師教育者）の育成>

大学院修了者の進路（2018年度～2022年度）

【博士課程前期】



【博士課程後期】



■進学 ■日本語教師 ■大学教員 ■学校教員 ■公務員等 ■一般就職 ■その他（未定含） ■日本語教師 ■大学教員 ■学校教員 ■公務員等 ■一般就職 ■その他（未定含）

- 博士課程前期から後期への進学者が一定数見られる。
- 博士課程後期修了者は国内・海外で大学に就職するものが多い。
(→教師教育者へ)

大学院で教師教育者を育成するためには

➡ 「養成される」側から「養成する」側への視点の転換

養成課程
の学部生



【博士課程前期】

<メンター>
養成課程の学生
の学びの理解

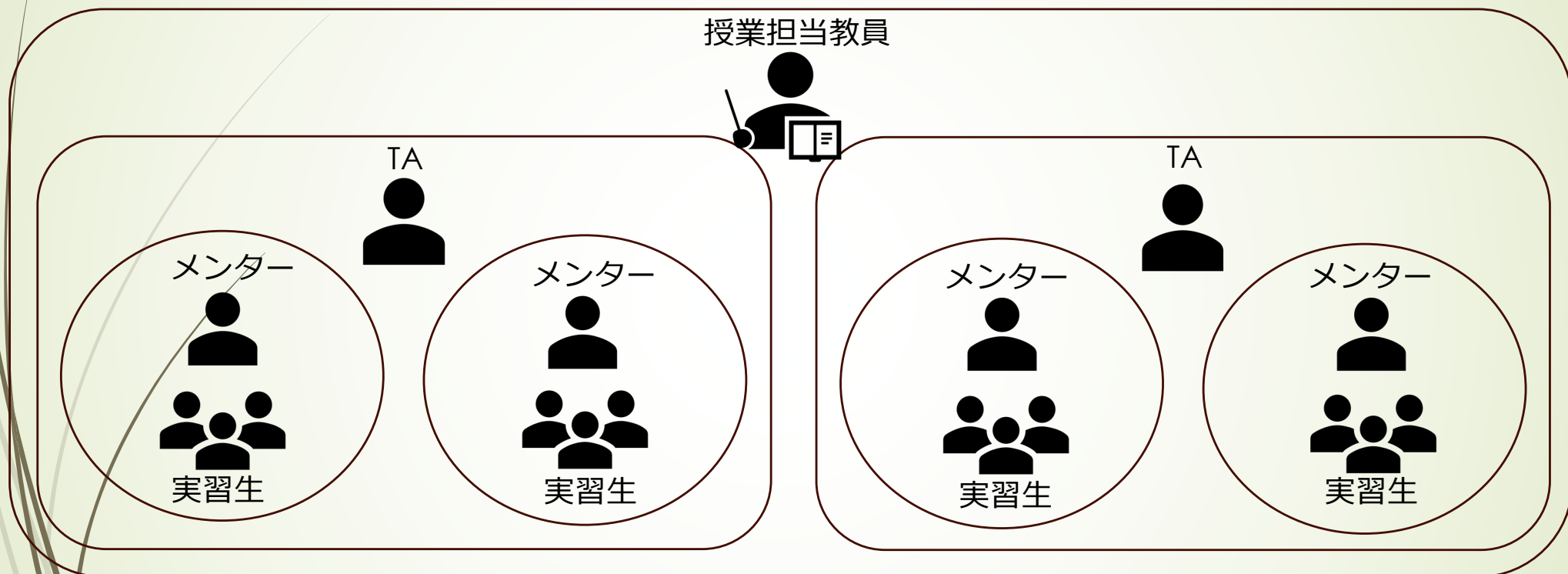
【博士課程後期】

<TA>
教員養成について
の理解（教師教育
者の視点の獲得）

養成課程
の教師



日本語教育実習における試み



メンター：「日本語教育実践研究」(M)の受講者(主にM1)

TA：日本語教育学プログラムの大学院生(主にM2, D)

メンターとしての教育実習への関わり

- ➡ 教育実習（授業観察，授業準備，模擬授業，教壇実習，実習授業の振り返り）を実習生とともに経験する中で，担当する実習生がどのように変化するかを観察する。毎回，授業後に観察メモを提出。
- ➡ 教育実習中，担当する実習生に付き添い，実習生から質問があれば答える。対応の仕方は自由。
- ➡ 実習生からの提出物（観察録，指導案，実習振り返りなど）は閲覧可能。実習生自身の気づきとメンターとしての見取りを比べる。


受講者（メンター）の声

- 自分が実習を受けた時には自身の変化に気がつきにくかったが、実習生の変化がよくわかった（実習生の理解）。
- これまで自分が受けてきた日本語教育実習を俯瞰的に見ることができた（授業の理解）。
- 大学院生が教員養成についての勉強ができるのはとても良い環境だと思う（教員養成への意識の高まり）。
- どのような関わり方をすれば実習生の成長につながるかを意識するようになった（関わり方についての問題意識）。

メンターからTAへ

人材育成としてのTA制度の活用

- PTA (Phoenix Teaching Assistant)
資格不要。資料の印刷や出欠管理等。
- QTA (Qualified Teaching Assistant)
研修会を受講。ディスカッションのファシリテーション等。
- TF (Teaching Fellow)
QTAの取得に加え、「大学教員養成講座」の単位取得が必要。
教員の指導のもと、シラバスの作成や単独で授業を実施。



これからの課題

- 教員養成と連携した，大学院での教師教育者育成のあり方について考える。
- 大学院で育成した人材の活用